

10月14日（水） ノーベル賞

ことし 今年^{ことし}のノーベル^{ノーベル}化学^{かがく}賞^{しょう}を、東京^{とうきょう}理科大学^{りかだいがく}名誉教授^{めいよきょうじゆ}の碓合^{そあい}憲三^{けんざう}さんが受賞^{じゆしょう}しました。碓合^{そあい}さんは、生命^{せいめい}の起源^{きげん}にせまる化学^{かがく}反応^{はんのう}を発見^{はっけん}し、それが、認め^{みと}られたのです。



すこ むづか 少々^{すこ}難しい^{むづか}ですが、どんな^{はっけん}発見^{はっけん}をしたのかを、まとめてみました。

アミノ^{さん}酸^{さん}などの化学^{かがく}物質^{ぶつしつ}には、右手^{みぎて}と左手^{ひだりて}のように、そっくりでも同じ^{おな}形^{かたち}ではなく、対^{つい}になっている二^{ふた}つの型^{かた}があります。けれども生き物^{いもの}の体内^{たいない}にあるアミノ^{さん}酸^{さん}などの多^{おほ}くは、一方^{いっぽう}の型^{かた}で、どうしてそうなるのかは長年^{ながねん}のなぞでした。

碓合^{そあい}さんは、初め^{はじ}に少^{すこ}し多^{おほ}かった型^{かた}が、自^{みづか}ら反^{はん}応^{のう}を速^{はや}める働き^{はたら}をしてど^ふんどん増^ふえる「不^ふ齊^{せい}自^じ己^こ触^{しょく}媒^{ばい}反^{はん}応^{のう}」をみつけました。「碓合^{そあい}反^{はん}応^{のう}」と呼ばれます。

碓合^{そあい}さんが研^{けん}究^{きゆう}で大切^{たいせつ}にしていることは、た^{じっけん}くさ^{じっけん}んの実^{じっけん}験^{けん}だそうです。「やってみないとわ^わか^から^らないこと^{こと}もある」とい^い言^いっています。同^{おな}じ日^に本^{ほん}人^{じん}として、誇^{ほこ}らしいです。

村越 新